

事例報告

鹿追町 株式会社カントリーホーム風景
取締役 清水 真弓 氏



★私の揺るぎない想い★

子ども達に安全なものを食べさせたい！牛と草と土を知り尽くした酪農家
がつくる、安全安心な商品作りがモットー。生産者が納得のいく地域の原料
や素材でつくる安全で美味しいものを消費者の皆様に味わってほしい。



■事業プロフィール

乳加工品製造 /ヨーグルト、飲むヨーグルトほか全9品、生乳処理量：約200～400㍑/日

カフェレストラン /ホットサンド、スロウバーガー、カレー、シェイク他

平均来客数：約30人/日、人気商品：スロウバーガー、ソフトクリーム

従業員 /従業員5名、パート3～4名、製造・工房は総体11名でシフト

乳加工品委託 /取引先：JA 鹿追、音更ハピオ、

ヨシダコーヒー、どさんこプラザなど、

北海道物産展 /関東・関西・九州を中心に年間15箇所程度



■取り組みのきっかけと現在

起業の始まりは趣味の世界から。町に加工施設が出来、我が家の生乳でアイスクリームを作って子どもに喜んでもらっていた。

同じ頃町内の加工品製造グループから誘いを受け、ヨーグルトを作り出す。添加物多しの物はNGとして、生乳の風味を損なわずのヨーグルトを試作しテスト販売し、自身が納得するヨーグルトを作り上げた。

町の施設でコツコツ手作りしていたが、下の息子の「そばにいて欲しい」の言葉から敷地内に小さな工房（今につながる施設）建て、手作りの製造を開始。当時は6次化事業等も無い時代で、「工房を建てた以上利益を出さないと！」と、搾乳後の夜業も普通だった。

工房自体が軌道に乗ったのは、次男に引き継いでここ数年のこと。今後は、生乳生産と工房を別会社にしていくため、工房の利益を更の求めていくことが必要。

今のレストランは、もともとゲストハウスだったものを改修し、食事の提供が可能な環境を作り上げてきた。ヨーグルトも食事のレシピも、当初から変えていない。出処のわからない生産物は使用しないこと、美味しいと言ってくれる応援団がいることを大事にしていきたい。

■笑える！or 泣ける！事業エピソード

酪農家&大家族の嫁として、25年前当時は子どもはお姑さんに預けて酪農の仕事に終始する日々。

ご飯もお姑さんが作っており、子どもに対しての母親の役割が無いような気持ちだった。それがアイスやヨーグルトの加工を通して、子どもに一番安心で美味しいものを提供できる環境が出来た。

子どものそばにいて、子どもが一番喜んでくれたことが原動力であり、その子ども達が、今事業をつないでくれている。

■私の思う事業継続のポイント

次男が会社勤めをやめて工房に入社したのが26歳の頃。

今40歳となり、工房はほぼ引き継いだ。任せた以上は一切の責任を委ね、口だしせず成長を見守ることが大事だと思う。次男自身が経験と判断を重ね事業を推進することが大事だと思う。

■これから事業を立ち上げる人へのメッセージ

色々なものが溢れる時代です。

自分の思いを商品に込めることが大切かと思います。

また、「何のために事業を決め、やり切る覚悟を持って取り組まれる事」を、お勧めします。



「このヨーグルトに名前を…」と考えた時
「牧場の朝…」、「しぼりたての牛乳…」
そんな時誰かが「でーでーぼっぼは？」と声にした
私はふと小さかった頃の口を思い出して
「でーでーぼっぼ」の音が聞こえてきたのです
そして やまぼとの声は
ヨーグルトの名前にかわったのです

一度この場所にきてみませんか
この広がる原野の地に
朝つゆの残る牧草畑を歩いてみてください
きっとあなたにも「でーでーぼっぼ」の囁き声が
聞こえてくるかもしれません
だれかの手をしっかりとにぎりしめながら…
まゆみ